

令和4年度事業報告書

自 令和4年 1月 1日

至 令和4年12月31日

一般社団法人 日本書道院

当法人の令和4年度に於いて実施した事業は次のとおりである。

1. 第71回日本書道院展

コロナ禍が続き各種行動制限が残る中、第71回日本書道院展を開催しました。

今回も感染対策を十分に行い3月25日(金)の搬入から、4月2日(土)の開会・8日(金)閉会の間、日本書道院の関係者から感染者はありませんでした。皆様の協力のお蔭です。

公募と同人以上の出品作品総数は前回展から3点増の1056点。様々な社会情勢を鑑みた中での出品増は特筆すべきことで出品頂いた皆様に改めて感謝申し上げます。役員はじめ文部科学大臣賞作品等の並んだ1室から上位入賞者を展示した3室、詩文書作品をメインにした4室、以降の各展示室も漢字・かな・詩文書三位一体をうたった日本書道院の明るい作品が並び来館者を楽しませました。役員作品へのQRコードでの釈文検索等は定着した様子でした。

今年は搬入日の1か月前に起こったロシアのウクライナ侵攻により、急遽「映菴展」の審査会員出品作品をチャリティーとして販売することを決め、募金と併せて405,210円をウクライナ支援として「公益財団法人毎日新聞東京社会事業団」を通じて寄付を致しました。チャリティーへの理解とご協力に感謝致します。

4月7日(木)の表彰式は、ホテルラングウッド会場での密を避けるために、出席対象を限定して開催いたしました。表彰式後の「出品者の集い」はコロナウイルスの感染防止を考慮して、パーティション設備や会場の換気の良い上野精養軒で開催しました。出席者は80名ほどでしたが懇親の会を喜び、展覧会の成功を祝う会が開催できました。会期中の来場者は7,330人とコロナ禍の中でしたが賑わいのある展覧会となりました。

2. 第71回全国学生書道展覧会開催と表彰式

全国学生書道展覧会は学校でのコロナウイルス感染による学級閉鎖等が、作品締切り時と重なり本展とK展合わせて74点減の1588点となりました。その中でも、意欲をもって出品頂いた方たちの内容は素晴らしく、文部科学大臣賞・知事賞・会長賞・日本書道院賞作品は東京都美術館開催の学生書道展として最高峰の内容と

言えるものでした。QRコードの利用は、学生展の方が進んでいて、会場で楽しそうにスマホをかざす来場者が大勢いました。4月3日(日)の表彰式は登壇人数を抑えて開催しました。受賞者代表の言葉ではコロナ禍の3年間の努力が述べられ会場から大きな拍手が送られました。授賞式動画を今年もHPにアップしました。会場はホテルラングウッドでした。

3. 第10回100人展・第39回選抜展・第14回同人展

11月22日(火)～27日(日)まで100人展をセントラルミュージアム銀座で、選抜展・同人展をフェニックスホールで予定通り開催しました。出品総点数は348点、昨年より2点の増加でした。コロナ禍でしたが2年連続の出品増となりました。皆様の出品意欲に感謝申し上げます。

100人展会場は日本書道院を代表する漢字・かな・詩文書作品が三位一体の上に、墨色・用紙美・縦横のバランス等充実した会場となりました。選抜展・同人展も会場壁面を工夫し明るい展示で来場者を迎えました。QRコードによる作品紹介は2年前の100人展で始めました。定着した内容は書道会随一点評されました。検温等の協力を頂きながら3年ぶりに入場者のカウントも取り2268名の来館がありました。

延期続きだった本院創立70周年記念のパーティーは、11月27日(日)帝国ホテル「光の間」でお客を含めて167名の参加で開催できました。日本書道院会員で声楽家の神足様の歌唱で皆様を迎え、全日本書道連盟・毎日書道会・日中文化交流協会等からご祝辞を頂き、70周年の足跡をまとめた映像を見ながら食事をし、和やかな祝宴となりました。また、会の中で20年にわたり会長を務めて頂いている中村雲龍会長へ感謝の花束を贈呈いたしました。

「日本書道院創立70周年記念祝賀会」出席者には「日本書道院70周年の足跡」と龍門20品から選んだ8品の拓本印刷物を記念品としました。

展覧会後に祝賀会に参加できなかった100人展・選抜展出品者へも70周年の記念品の送付を致しました。

4. 第73回毎日書道展

第73回毎日書道展は搬入・審査準備・審査・陳列と概ね例年通りのスケジュールで開催致しました。日本書道院の総出品点数855点、グランプリと呼ばれる会員賞に、かな部で三井忠大さん、近代詩文書部では初受賞となる中澤京苑さんのダブル受賞となり2年連続の快挙となりました。また、毎日賞6名・秀作賞14名・佳作賞27名に加えて、U23で毎日賞と奨励賞に1名ずつ選ばれ大変好成績でした。表彰式は7月24日(日)にザ・プリンスパークタワー東京で開催され、日本書道

院からは会員賞・毎日賞と各賞代表に選ばれた方と、中村会長・三宅副会長をはじめ当番審査員と展覧会委員等の出席がありました。表彰式後恒例の懇親会は残念ながら今年も中止となりました。

5. 支部長会

6月12日(日)と11月13日(日)に第42回と43回の支部長会を、3年ぶりに対面で開催いたしました。DVDによる作品解説にも良い所はありますが、直接質問等ができるうえに会長が参考に展示した課題の実物大拓本等もあり、内容の濃い支部長会となりました。会場は広さと換気の良いホテルラングウッドにしました。それぞれ54名・47名の参加でした。

6. 研修旅行

3年ぶりに研修旅行を実施致しました。9月23日(金・祝)～24日(土)の日程で山梨県の「市川太門碑林公園」「紙すきの里」をメインに見学しました。台風が近づく中でしたが、碑林公園では雨も降らずに中国監修の名碑(精巧な複製)を見学し、採拓体験等行いました。紙すきの里では、「山十製紙」で全紙の紙すきや乾操作業を見た上に、数人が職人技を体験しました。23日夜から風雨が強くなり、24日予定していた静岡・白糸の滝はあきらめ山梨県内の忍野八海を巡り帰路につきました。参加者は14名でした。

7. 講習会の開催

1月に予定した日本書道院展・毎日展等への講習会は、郵送により作品を添削し40人から送付がありました。以降は極力対面での研修会にしたいと思っています。

7月28日(木)は川口リリアで100人展・選抜展・同人展を対象に開催し対面での参加44名のほか郵送添削を致しました。

他に各支部主催による錬成会・研修会が開催されました。

(開玄社合宿錬成会・水光会研修会・玄同社錬成会)

8. 師範・準師範・昇段級受験者のための講習会

師範受験者等への講習会も川口リリアで開催し、郵送も含めて26名が参加しました。師範受験者で添削を受けた方は全員合格いたしました。

9. 同人昇格者推薦証・師範合格認定証交付式及び同人展表彰式

12月4日(日)同人昇格者22名、第64次漢字・かな及び第22次詩文書の師範と第7次硬筆部師範に合格された86名、毛筆細字部玄位認定者1名、荣誉師範合格者1名に推薦証並びに認定証の交付と同人展の優秀賞13名への表彰を行いました。

た。出席者は62名でした。ホテルラングウッドの広い会場で行い、式典後昼食会を開催し和やかに親睦を深めました。

10. 「創立70周年記念誌」作成

日本書道院創立70周年を記念して記念誌「日本書道院70年の足跡」を11月22日付で刊行しました。

11. 日中韓書法名家友好揮毫会

日中国交正常化50周年と中韓国交樹立30周年を迎えた今年、日中韓三カ国で「日中韓書法名家友好揮毫会」をオンラインで開催することとなり、日本中国文化交流協会から日本書道院に参加協力の依頼がありました。9月6日(火)に日本書道院会館3階を使用して、3カ国をリモートで繋ぎ開催されました。

日本書道院から中村会長・稲葉常務理事・平山理事が参加して3カ国同時に「友好」等のテーマに即した席上揮毫を披露しました。また、次代を担う青年書家として日本書道院から20代の3名も参加し、臨書作品・漢字作品・詩文書作品を揮毫しました。揮毫会には日本中国文化交流協会中野専務理事も参加し、3カ国の文化交流の大切さを共有しました。オンライン揮毫会は今回で3回目ですが、日本と中国の国交正常化50周年の記念の年に、日本書道院が参加できたことは名誉であり喜ばしいことでした。

12. 機関誌「日本書道」の刊行

昭和32年11月創刊以来、令和4年12月現在をもって通刊782号を数え、12月号の発行部数は3,800部である。

13. 関係文化団体との協力について

関係文化団体との連絡提携には格別の意を用いている。公益社団法人全日本書道連盟は維持団体、一般財団法人毎日書道会は参加団体、一般財団法人日本中国文化交流協会は特別会員として加盟している。

なお、中村雲龍会長は全日本書道連盟顧問・毎日書道会顧問・日本中国文化交流協会常任委員として協力している。また三宅相舟副会長は毎日書道会監事・遠山副会長は全日本書道連盟監事として協力している。

14. 会員との連絡について

会員との連絡については、機関誌「日本書道」を通じて周知徹底を図っているが、別に重要な事業については直接会員に通知している。なお、12月1日現在の会員名簿を作成した。

15. 会報の発行

12月20日付をもって「会報」45号を発行した。

16. 役員会及び各種委員会の開催

役員会 6回 各種委員会・打合せ会 7回

17. 支部の指導と地方展の後援

支部の行事と地方展に対する指導後援は次のとおりである。

- | | | | | |
|-----|-----|----------|-----|----------|
| (1) | 1月 | 開玄社書展 | 1月 | 祐正社展 |
| | 2月 | 静書会書展 | 2月 | くれない会書展 |
| | 6月 | 祥祇会書展 | 7月 | 水光同門書展 |
| | 9月 | 墨翠会書道展 | 10月 | 葵心会書展 |
| | 10月 | 玄同社書展 | | |
| (2) | 1月 | 玄同社錬成会 | 7月 | 開玄社会宿錬成会 |
| | 7月 | 水光会作品研修会 | | |

18. 会員数

12月31日現在の本院の会員数は1,383名である。

19. 令和4年12月末現在の役員は次のとおりである。

常任顧問	高堀金中	橋子塚村宅	静雅薫博雲相如寿相花東美白瑤	豪峯静子龍舟龍苑蓉紅苑影苑伸	市本神	川堂谷	嘉耿京	泉苑子
顧問	中三稲成青神白平山小	葉田砥作石山田泉			遠斉	山藤	白龍	雲堂
会長理事						野崎谷	静流志柳	雲芳水青
副会長理事					荻駒菅細	島		虹
常務理事								周
監事								

令和4年度事業報告に関して、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定している附属明細書により、その内容を補足すべき重要な事項はありませんので附属明細書は作成しておりません。